

全国保健師長会 2023年度 北海道支部便り

令和6年を迎え、気が付くとあっという間に3月も過ぎ去っていきました。年明け早々、心の痛くなるニュースが飛び込んできましたが、まずは、石川県能登半島沖を震源とする地震により被災されたみなさまと、そのご家族・ご関係者様に心よりお見舞い申し上げます。また、私たち保健師仲間をはじめとする、被災地で支援活動に尽力されている方々に敬意を表し、みなさまの安全と被災地の一刻も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

3年以上もの長い間、私たちが翻弄されてきた新型コロナウイルス感染症は、昨年5月に5類感染症へと移行し、ようやくコロナ禍以前の日常が戻ってきたところですが、この教訓をどう生かせるのか、そして、この場で私たちにできる支援は何だろうか、日々考えているところです。

新しい年度を迎えてしまい大変恐縮なのですが、2023年度の支部便りをお届けします。

北海道ブロック研修会を開催しました！

コロナ禍で疲弊された皆さまから、参加して良かったとのご感想をいただきました

全国保健師長会では、「変わりゆく地域課題に対峙する公衆衛生看護活動の展開」～「誰一人取り残されない」保健師活動の転換期を仲間とともに乗り越える～を、令和5年度の活動のテーマとしています。それに基づき、全国保健師長会北海道ブロック*では、地域に責任を持った活動の取組みを推進するため、北海道、市町村、政令市それぞれの立場でのコロナ禍における保健師活動の実際を共有し、新興感染症発生時を含む健康危機発生時の保健師の役割、保健師活動の在り方を考えるとともに、コロナ禍における保健師活動の振り返りを通じて保健師としての専門性を高めることを目的に、シンポジウムを開催しました。

※「全国保健師長会 北海道ブロック」は、「北海道支部」と「札幌支部」で構成されており、情報交換や合同研修などの取組みをとおり、連携を深めています。

<日時> 令和5年10月28日(土) 13:30~15:30

<会場> TKP ガーデンシティ PREMIUM 札幌大通 カンファレンスルーム 6B

<対象> 北海道で働く保健師(会員・非会員問わず)

<内容> シンポジウム「コロナ禍の保健師活動を振り返る」

座長 札幌市保健所長 山口 亮 氏

シンポジスト ① 北海道名寄保健所健康推進課 健康支援係長 千田 ちさと 氏

② 沼田町保健福祉課 参事 西尾 佳代 氏

③ 札幌市北区保健福祉部健康・子ども課 課長 石川 珠美 氏

66名のご参加がありました！

北海道保健師関係団体連絡研修会を開催しました！

北海道ブロックでは、北海道看護協会保健師職能委員会、保健師教育機関協議会との関係を密にし、北海道における保健師活動の発展を目指して3団体が協力して活動しており、会員の親睦と資質向上のため研修会等を実施しています。

令和5年度は、行政に所属する全世代の保健師が、保健師固有の“個別支援”の技術とは何かを確認するとともに、各期に求められる役割を再考し、保健師が保健師らしく働き続けるためのモチベーションを高める機会とするため、集合研修会を開催しました。

塩川先生のパワフルな講義のあとのグループワークでは、日々の保健師活動について、笑顔満載のざっくばらんな意見交換が行われ、終了時のアンケートでもたくさんの方から「大変有意義だった」との感想をいただきました。



吹雪で天候の悪い中、92名の方が参加し塩川先生の講演に耳を傾けました

<日時> 令和5年12月16日(土) 13:00~15:30

<会場> かでる2.7 820号会議室

<対象> 北海道で働く保健師(会員・非会員問わず)

<内容> ○講演「コロナ禍を経て保健活動の原点回帰！個別支援の極意」
～保健師の技術(ワザ)・保健師マインド～

講師 旭川医科大学医学部 看護学科 准教授 塩川 幸子 氏

○グループワーク(経験年数別)

テーマ「個別支援から地域の健康課題解決につなげる保健活動の取組について」

個別支援から地域課題。
保健師の専門性を実感！
(係長以上)

塩川先生も楽しそう



個別を積み重ねて集団・
地域を見られるようになりたい！
(新任期)



皆同じような悩みを感じていて共感
できたことが自分の整理になった！
(中堅期)

本紙への掲載について了承を得ていなかったため、加工して掲載させていただきました。😊 わきあいあいとした雰囲気伝わるといいのですが...

全国保健師長会代議員総会 参加報告

令和5年度全国保健師長会代議員総会が、長野県において開催されました。第45回となる今回は、「DXで保健師活動はどう変わる? ~今、保健師が取り組むべきこと~」をテーマに、現地及び Web 参加によるハイブリッド開催で、北海道支部からは西尾副支部長が現地参加しました。



— 全国保健師長会ホームページより —

【第45回全国保健師長会代議員総会】

＜日時＞ 令和5年11月19日（土）

＜開催地＞ 長野県 長野市

＜参加代議員＞ 現地参加：西尾副支部長（沼田町）

Web参加：角谷支部長（稚内保健所）、工藤書記（稚内保健所）、
工藤会計（上川保健所）、菊池会員（根室保健所）

○会長挨拶・来賓祝辞

○総会議事 議案（第1～8号）審議及び報告事項：全て可決

役員改選及び結果報告：告示のとおり選出

○基調講演：「DXで保健師活動はどう変わる? ~今、保健師が取り組むべきこと~」

慶應義塾大学看護医療学部 教授 田口 敦子 氏（助教 赤塚 永貴 氏）

○実践報告①：「地方自治体の保健師活動におけるICTの活用に関する調査から見えてきた課題」

大分県西部保健所 疾病・感染症対策班（総括） 課長補佐 吉田 知可 氏

○実践報告②：「島田市における保健師活動のDX化への取組」

静岡県島田市健康づくり課 技監 鈴木 仁枝 氏

○次回開催県：福井県挨拶 玉井 さをり 氏

◇参加会員の感想◇

令和5年11月18日(土)長野市にて第45回代議員総会が開催され、北海道ブロックから4名が出席しました。新型コロナウイルス感染症5類移行後の開催であることから、会場は熱気に満ちあふれ、関心の高まりを肌で感じました。

開会にあたり、来賓各位からコロナ禍における保健師活動の高い評価と今後への期待のおことばを頂きました。

また、総会審議後の研修会では、保健師活動におけるDX及びICTの活用にかかわる基調講演と実践報告を頂きました。前日の研修会においても、厚生労働省五十嵐保健指導室長及び東北大学辻名誉教授が「2040年に向けて日本の人口構造が大きく変化し、現状の社会システムを維持するには業務効率化は不可欠である。」と危機感を持って述べられたことから、苦手意識が強いアナログ世代の私もデジタル化は避けて通れないと覚悟を持つに至りました。

最後になりますが、このたび総会出席の機会を頂いたことに感謝申し上げますと共に、諸先輩方が時代の変遷に流されずに続けてこられた“住民の暮らしを守る保健師活動”を受け継ぎ、次世代へ繋ぐ使命を背負い、怯むことなく邁進する所存です。

北海道支部 副支部長 西尾 佳代

令和6年度の開催地は**福井県福井市**です。参加希望される方からのご連絡をお待ちしております。

◇全国保健師長会北海道ブロック役員全員・塩川先生のナイスショット◇



後列左から 工藤 秀和(稚内 HC)、遠藤 智美(札幌市)、手塚 理恵(札幌市)、斉藤 佳代子(札幌市)、石川 珠美(札幌市)、中川 妙美(札幌市)、工藤 康子(上川 HC)
前列左から 橋本 真紀子(小樽市)、玉井 綾子(網走 HC)、塩川 幸子 先生(旭川医科大学)、角谷 里佳(稚内 HC)、西尾 佳代(沼田町)

実は...
タイマーをセットしたスマホが
どンドン下がってきて、
みんなハラハラしています(笑)



令和 5 年度全国保健師長会北海道ブロック役員と旭川医科大学 塩川先生のナイスショット写真です(*^o^*)。
北海道ブロックは、北海道支部と札幌支部が連携し、北海道内で働く保健師の「専門性の高い公衆衛生看護活動の探求」や「自治体で活動するリーダーの資質向上と連携強化を図る」ことをねらいとし保健師間のネットワーク構築と育ちあえる活動を目指しています。

健康危機が人ごととはならない時代となりました。新型コロナウイルス感染症対策においては、保健師同士よく頑張ってきたことを労うとともに、コロナ禍を経て、保健活動の再始動を邁進していく必要があります。保健活動の転換期と言われていますが、北海道で働く保健師リーダーたちが、いきいきと保健活動に従事し、保健師活動が、今も昔もブレることなく、地域住民が安心して生活できる地域を目指し、仲間と公衆衛生看護活動に取り組んでいきたいと思えます。

ぜひ、北海道で働く保健師リーダーのネットワークを更に強固なものへと繋いでいきませんか。

北海道支部 支部長 角谷 里佳

Japan Association of Public Health Nurse Directors



全国保健師長会



◆令和6年度北海道支部総会◆ 開催日程：令和6年6月 書面開催予定
会員の皆様には、改めてご案内をさせていただきます。

【令和6年度北海道支部会員数】 令和6年3月31日現在 92名
(市町村 16名、政令市/中核市 4名、道 70名、その他(国保連) 2名)

令和6年度につきましても、全国保健師長会への継続加入と新規会員加入のお声掛けをお願いします。
北海道の保健師活動を一緒に盛り上げていきましょう！

